

日本武器輸入155%増

SIPRI報告書 世界6位に米から97%

スウェーデンのストックホルム国際平和研究所（SIPRI）は11日、世界の武器取引に関する報告書を公表しました。これによれば、2019～23年の5年間の日本の武器輸入が14～18年比で155%増にな

り、日本は世界で第6位の武器輸入国となりました。報告書は、日本の武器輸入元の97%は米国だと指摘。長射程攻撃能力に多額の投資を行い、米国製の戦闘機29機を調達し、23年に中国や北朝鮮の奥深くにある

る目標を攻撃できる長射程対地攻撃ミサイル400発を取得したとしています。岸田政権は22年12月に閣議決定した安保3文書で、歴代政権が違憲としてきた敵基地攻撃能力の保有を明記。軍事費の2倍化を掲げ、米国製の長距離巡航ミサイル・トマホーク400発や、対地攻撃を専門とするF35Bステルス戦闘機などの導入を進めています。

国別で見れば、ロシアによる侵略を受けているウクライナの武器輸入は6633%増え、世界第4位となりました。

一方、武器輸出では米国が17%増え、世界全体の輸出の42%を占めています。米国の武器輸出先では日本が9.5%（161%増）を占め、アジア・オセアニア地域で最大の取引国になっています。日本国民の税金が、米国の武器市場拡大を支えている実態が浮き彫りになりました。